

解し思考することができるだろう。

木材の特性理解のための基礎的指導に顕微鏡をとり入れた学習活動のくふうも大切と思われる。

膨張と収縮の指導についても、含有水分の影響や比重との関連性、木材の構造的な特徴など、その取り扱いについて基礎的な関連要素を指導しなければ、生徒達が理論的に理解することは困難となってくるであろう。

このように考えるならば、木材の特性に関する指導はその過程のなかで「あまさ」がなかったかどうか反省してみる必要があろう。

② 実習題材の選定

物心両面について「生活を明るく豊かにする」のが技術・家庭科のねらいであるとするならば、実習題材の選定は極めて重要であるといえる。

実習題材の良し悪しによって目標達成が十分にはかられるか、半減したりするかが決定づけられると思うからである。

実習題材を選定する条件として、指導要領には

- 各領域に示されている項目や指導事項に適切なもの。
- 発展的、系統的な指導が行なわれるもの。
- 生徒の興味や能力の程度に即しているもの。
- 家庭生活に焦点をしばり、その充実発展に役立つもの。

とかなり具体的に示している。

実習題材として、指導要領や教科書に示されているものはいずれも選定上の参考例であって、これらに従うことはないというものの、実際にどういったものを選定したらよいか悩むものである。

県内には技術・家庭科の研究部会があり、各支部や方部別に編成された組織がある。

年に幾度かは会合や研究が行なわれているので、これらの問題についても討議され、論議をつくして最良の題材を選定されてみてはどうだろう。

4. 学習指導計画

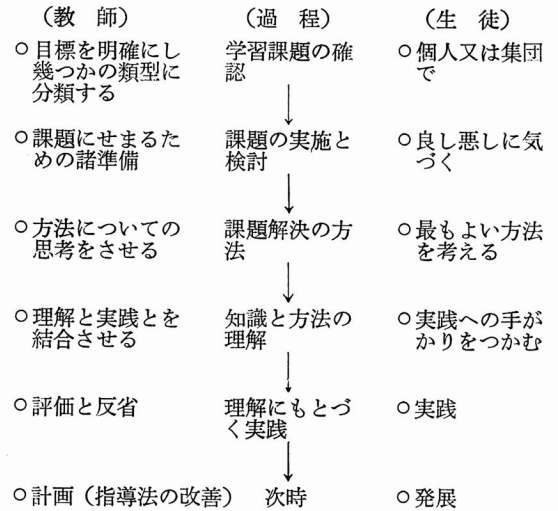
指導要領によれば

- ① 技術・家庭科の目標をふまえ、実践的活動を中核とする指導計画を作成すること。
- ② 各領域の指導事項をふまえること。
- ③ 各領域の題材は指導事項を基礎にして決めること。
- ④ 各領域の授業時数は、各領域の特色と題材を考慮して決めること。
- ⑤ 各領域の学習順序は、学習の発展性や他教科との関連を考慮して決めること。
- ⑥ 作る、知る、考える学習が一体的に進められるように学習過程をくふうすること。
- ⑦ 指導事項の知る、考える、できるについて、具体的な指導法、学習のさせ方を研究すること。

⑧ 施設、設備の活用と安全指導に留意すること。

各領域の基本的な指導計画は①～⑤に、具体的な1時間における指導計画が⑥～⑧にと考えられ、学習の方法や、学習過程をくふうしていく方向を示しているものではないだろうか。

学習の方法には、それぞれの理論があり、いろいろな特色がある。その特長を生かすよう心がけ、題材によっていろいろな試みがされると思われるが、一例を参考にあげてみる。



5. おわりに

木材加工学習は、生徒の興味と関心を高める領域として最適であり、木材加工の基礎的技術を習得させ、実践的態度を育成し、創造性を伸ばすためには適切な領域と考えられる。

しかし物を製作するという生徒の興味と関心が先行して、指導過程での1節1節での創意性を生かす試みが軽視されてはならない。

生徒はあまりにも身近にある木材に対して、その特性を知らず、また工具や機械の正しい使用法と原理も知らぬままに物を製作してきたのが過去の経験である。

中学生として、小学校にはなかった新しい教科としての性格を生徒にわからせ、指導を適切にしていくならば、よろこびと感動のある技術・家庭科として、生徒の学習は、より好ましく展開されるであろう。

参考文献

中学校学習指導要領の展開
 学習指導の手びき (県教委編)
 木材物理 (北原覚一編)